

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 浪漫	代表者	代表取締役 黒岩 尚文	法人・ 事業所 の特徴	①地域とのつながり（地域交流スペースの解放と活用・自治会への加入と自治会活動への参加・ボランティア）②子ども110番、始良市認定「介護の相談 語らい処」の設置③地域行事への参加、朝のゴミ拾い④ライフサポートプランの導入⑤タッチフォンの貸与⑥認知症の人の、ひもときシートを活用したカンファレンス⑦家族会（ホッとタイム）の実施⑧社会貢献活動の受け入れ⑨お習字教室の開催⑩加治木・宝島に同一法人の事業所があり、また北海道にも関連事業所がある。お互いに連携を図り刺激し合いながら実践を共有し合っている。職員交流も行っている。⑪始良市地域支え合い体制づくり事業への参加⑫始良市小規模連絡会に所属しており、情報共有を図っている。
事業所名	共生ホーム よかあんべ	管理者	荳口 淳		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	7人	1人	1人	1人	1人	2人	人	14人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> ・できている点、できていない点の事実は分かるが、具体例が挙げるともう少し分かりやすい。 ・できていない点が、翌年にどうなったのか評価をしていき、また課題に取り組むという流れが分かりやすく取り組んでほしい。 ・できている点、できていない点が、改善計画に反映されているといいのではないか。 ・自己評価通りであると思います。年々、地域に根付き、よかあんべの取り組みは広がってきていると思います。近所のご利用者が地域行事に参加したりできていて、この方向性で進めてほしいと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所評価において、実施している具体的事例を提示できるように定期的な運営推進会議での説明や次回評価時において報告を行う。 ・これまでと変わりなく、理念に沿って出会った方との関係を大切にしていき、その人の暮らしを支える視点で、その人の地域に向向いていけるように取り組む。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> ・個別の対応をされていて大変そうである。 ・具体的にどのような対応をされているのか教えてほしい。 ・施錠せずに安全面の配慮はどうされているのか。 ・お互いに連携しつつも、もっとよかあんべの中でも笑いがあったり、懐かしい音楽が外に聞こえてきたりするのもいいと思います。 ・近隣の大型の病院は2重ロックであ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も理念に沿って、ご利用者が地域に向向いていける環境づくりを大切にしながらも、そこにはスタッフが寄り添うように努める。施錠は夜間のみ実施しており、継続する。 ・事業所内での取り組みや、出来事等は機関紙にて自治会回覧板にて皆さまにお伝えできるよう

			<p>り、さらに火災の時にはどこから入って、どこから人を助け、どこから搬出すればよいかわからない。実際の火災時が消防署 4 名、それに消防団が追加で出動となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よかあんべの避難訓練時の非常ベル使用で、施設状態では外部にベル音は聞こえない。 	にする。
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフさんの中にも、受け身で挨拶する人がいる。 ・スタッフがわからない。 ・私たち大人が率先して挨拶をしないといけない。 ・積極的に地域行事や活動に参加して下さっている。よかあんべ主催のイベントにも参加できていて、今後も一緒にできればよいと思う。 ・認知症の人が増えることを想定して予防の普及や、認知症の人を地域で支えるために、よかあんべさんにも地域行事やサロン活動は声をかけるようにしている。 ・地域の方に声をかけてもらい、ご利用者さんもそれで元気になることを実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出会った人とは積極的に挨拶を交わす。 ・スタッフの紹介を運営推進会議や機関紙にてお知らせする。 ・今後も地域行事にご利用者と共に積極的に参加し、出来るだけスタッフが交代に参加する。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・1の質問のような問いの言葉は表現が分かりにくい。 ・よく、地域の行事に参加して下さっています。 ・地域の方も、よかあんべがこういうところだと認識してくれて、実際に頼ってこられているのを知っています。 ・よかあんべのご利用者や地域の方が、地域で生活することが出来ると、地域の繋がりも切れず、地域の方との触れ合いも続くので近くのサービスを利用するほうが良いし、利用の仕方を自分たちも考えないといけない。 ・グランドゴルフ大会でのIさんの参加する姿を見て、地域で住み続けることが大事だと思いました。 ・よかあんべが属する地域外に住む、物理的にも距離があるご利用者が、その住む地域の行事に参加したりできれ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者以外の突発的な相談事等にも速やかに民生委員さんや自治会役員の方と連携をとっていく。 ・その人の地域での暮らしを支える人やものを知り、その人たちに知らないことや相談を持ち掛け、一緒に解決する姿勢を持つ。

			<p>ばもっと良いのだが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年実施した加治木ビューティフル作戦も、この目的に沿っていたと思う。ご利用者と地域の顔が繋がったり、地域の人同士のつながりも生まれた。 	
E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員として守秘義務があるが、言える範囲で自治会長さんや長寿会長、よかあんべさんと情報交換をすることが大切だと思う。 ・今年取り組んだ「ビューティフル作戦」は当会議のメンバーが主になり、当会議も用いて行うことでよかった。 ・私の母は始良市外で暮らしていた。その市町村にもよかあんべのような施設があれば、私の母も加治木に移ってくることはなかったと思います。 ・近くの事業所が良い面もあるが、特に男性は自分のことを知らないところを望む方もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の始良市の地域支え合い事業も当会議メンバーを軸に展開していけるようにする。 ・地域の方々への予防活動にも力を入れ、その相談や企画等に当会議を活用していく。
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> ・火災訓練には、地域の消防団長が参加している。 ・事業所の防災訓練は年に2回実施している他、具体的な計画は知らない。 ・校区の防災訓練にも参加しておられる。 ・台風、地震等時は自治会長さん長寿会長さんと連絡をとり、地域の一人暮らしの高齢者等の避難場所としてもよかあんべを今後も開放していく。 ・桜島海底噴火の場合は、7分で津波が押し寄せてくる。 ・田中橋、萩原公民館に大正3年の桜島大噴火時の津波の高さが明記されている。 ・この辺りではよかあんべが海拔が高く、下手に動かないほうが良い。柁城小は建物もしっかりしていて高い。 ・加治木中、保健センター、福祉センター、とむランド等の避難場所の確認が必要。 ・8.6 水害で小山田への道路は高井田の山道は土砂崩れを起こし、とむランドは1メートル程水につかったことがあ 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も事業所の防災訓練に地域の方々に参加できるように声をかけていく。また、地域の防災訓練には参加する。 ・運営推進会議にて防災計画を伝える場面をつくる。 ・引き続き、台風等が予測できるときは事前に自治会長さんや長寿会長さんへ開放の意思をお伝えする。 ・大災害における避難の手段を具体的にしていこうように努める。

			<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none">・水はポリタンクに溜めておいたほうがよいだろう。・大地震や、津波の規模によって、いざというときに具体的のどのよう避難するのかを考えることが必要ではないか。・その為にも自助、公助、共助の意識が大切だろうし、よかあんべにとっては周りの協力も必要だ。・自治会の自主防災組織はどうなっているのか？・災害の時は、食事をどうするかが重要な問題である。・自治会等と協力して、非常食のストックができればよいのではないか。	
--	--	--	---	--